

編集後記

当研究所は来年1月に創立20周年を迎えますが、本誌の方は一足早く第20巻を数えることになりました。そこで記念の企画として、第3号に小特集を組み、理論と政策とのかかわり、経済学、社会学及び制度論の各視点から社会保障研究の将来に向けての課題を検討してみたいと考えております。

例年の本誌の編集原則は、1号に毎年2月に行われる当研究所シンポジウムの報告と討論を、また、2号と3号とに当研究所研究プロジェクトの報告を収録する一方、4号は自由論題とし、各号に外部の研究者の方々と当研究所研究員の論文を分載してゆくというものです。しかし本年度は当研究所研究員全員が、単行書『福祉政策の基本問題』（来年2月刊行予定）に執筆いたしますので、本誌は外部の方々の論文を中心に編集して参ります。

20巻2号は、昨年4月から2年継続の医療問題研究プロジェクトにちなみ、医療特集を組みます。そこでは医療保障や医療供給体制の問題に限らず、医療技術の発展と社会の価値・倫理の問題や、医療情報機器の発展の問題も取り上げ、医学専門の方々に大幅に御参加頂くことになっております。

さて本号は、さる2月のシンポジウム、「社会保障をめぐる公私の役割」の他に、自由論題で3本の論文と1本の研究ノート及び少し長目の書評を掲載しております。第1の論文は、長年ILOに御勤務の後、今春神戸商船大学に移られた樋口富男先生の「社会保障制度における事故の概念」で、所得保障のカバーする事故の概念が多様化するニードへの対応の中で拡散、混乱し、不明瞭化してきていることを問題として、同概念の整理統合と今後の発展方向を示唆したものです。

第2の論文、「カナダの老齢年金制度について」は、従来紹介されることの比較的少なかったカナダの社会保障のうち、老齢年金をとり出し、公的制度の概要、それとの関連における私的年金の紹介を行い、さらに公的制度の最低生活保障機能と私的保険代替機能との現実におけるワーキングを検討したものです。

第3の論文、「人的資本理論に基づく医療需要の経済分析」は、機会費用や自己負担率の異なる主体間にみられる受療行動の相違を分析したもので、特に前者の40歳代家族、70歳代老人層及び健保本人への影響の有無及び強弱が重視されています。

以上が所得保障及び医療に関するものであるのに対し、研究ノートと書評とは社会福祉に関するもので、前者は本誌の投稿制度によるものです。本誌が投稿制度を設けてから4年目になりますが、おかげさまで段段に応募原稿が増えて参りました。今後とも皆様の御協力と御参加とを得て、ますます良い学術誌にしてゆきたいと思っております。どうぞよろしく願ひいたします。

ところで、昭和55年以来、編集幹事をつとめて参りました高橋紘士が、本年3月を以て法政大学に転出いたしました。今後は平岡公一が代ってその任に当たりますので併せてよろしく願ひいたします。

なお、本誌105頁に御案内させていただきましたように、当研究所は来る7月1日より事務所を移転いたします予定です。今後とも相変りませず御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。（城戸）

編集委員長 福 武 直 (社会保障研究所長)

編集委員 青 井 和 夫 (津田塾大学教授)

飯 野 靖 四 (慶応義塾大学教授)

小 沼 正 (駒沢大学教授)

小 林 良 二 (東京都立大学助教授)

小 山 路 男 (上智大学教授)

編集幹事 宇 野 正 道 (社会保障研究所研究員)

城 戸 喜 子 (社会保障研究所主任研究員)

地主重美 (千葉大学教授)

平石長久 (岐阜経済大学教授)

保坂哲哉 (金沢大学教授)

三浦文夫 (日本社会事業大学教授)

安川正彬 (慶応義塾大学教授)

平岡公一 (社会保障研究所研究員)

(五十音順)

季刊
社会保障研究 Vol. 20, No. 1, Summer 1984

(通巻 84号)

昭和59年6月25日 発行

編集・発行所

社 会 保 障 研 究 所

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目3番4号

社会事業会館内

電話 (580) 2511

製 作

財団法人 東京大学出版会

〒113 東京都文京区本郷7丁目3番地の1

電話 (811) 8814